

■お袈裟の奉納

お袈裟に恥じない僧侶となる

善光寺住職 黒田博志

平成二十七年五月七日、鈴木福田会の鈴木裕美様より善光寺へお袈裟を奉納していただきました。鈴木様とは大乘寺山主東隆眞老師のご縁であります。

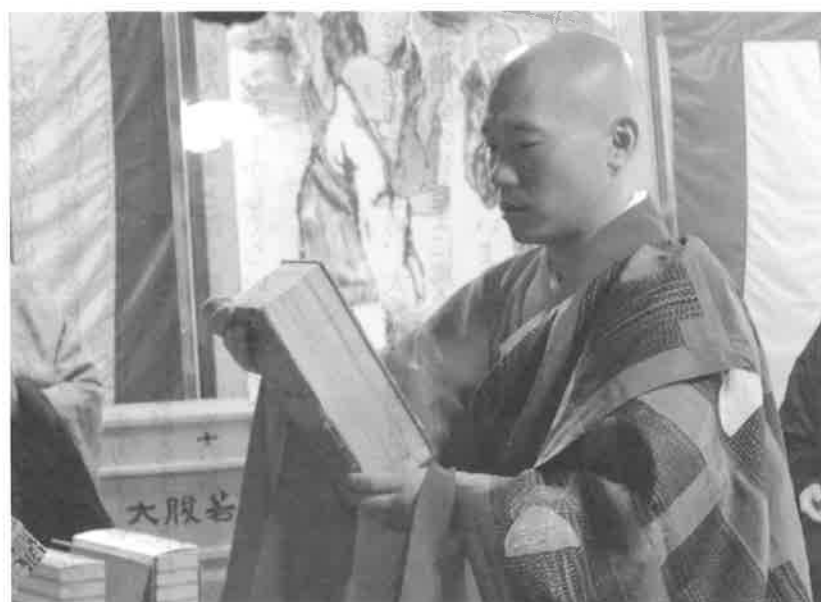
以前、お袈裟を縫われる「福田会」の活動を拝見する機会がありました。その時は、「素晴らしい徳行ですね。今度私も絛子を縫ってみたいので、その節はご指導下さい」と挨拶をして別れました。

そして今春のこと「この度、お袈裟が出来あがりました」とのご連絡を頂き、当に青天の霹靂でした。

この突然の吉報に驚きと有りがたさを感じ、さらに実際にお袈裟を目にし、手にとってみて改めて感謝の思いがこみ上げて参りました。

人とのご縁、優しさに触れながら生かされているんだなあと深く感じ入り、このお袈裟をかけても恥ずかしくない僧侶にならなければと深く誓いました。

東老師をはじめ、大乘寺関係者の皆さま、鈴木福田会の皆さまに篤く篤く感謝申し上げます。ありがとうございます。



塔た袈け裟さ偈げ

大だい哉さい解げ脱だつ服ぶく

無む相そう福ふく田でん衣え

披ひ奉ぶ如に来よ教らい

広こう度ど諸しよ衆しゆ生じよう

大いなる解脫服、  
無相福田の衣、  
如来の教えを  
身につけたてまつり、  
広く諸々の  
衆生を渡さん

### 「塔袈裟偈」のこころ

曹洞宗では、法を伝える事を衣鉢を伝えると  
いうように、衣、袈裟を尊重致します。

とくに道元禅師は『正法眼蔵』に「袈裟功德」  
「伝衣」の巻を著わし、袈裟が正伝の仏法の証  
であることを強調されております。

まことにわれら邊地にうまれて末法にあふ、  
うらむべしといへども、佛佛嫡嫡相承の衣  
法にあふたてまつる、いくそばくのよろこ  
びとかせん

(袈裟功德)

毎朝、暁天坐禅の終わる時、お袈裟をふくさ  
より出して頭上に安じ（平生はお袈裟を両手に  
捧げ）合掌して「塔袈裟偈」を唱え、仏弟子と

しての決意と感謝の意を表しお袈裟を身につけます。

塔袈裟の偈では、解脫服と表されるように、仏さまはみなこのお袈裟をつけて修行しお悟りをひらかれました。

袈裟をばふるくよりいはく、除熱惱服（煩悩の熱を除く服）となづく、解脫服となづく。おほよそ功德はかるべからざるなり。（中略）袈裟はこれ仏身なり、仏心なり。また、解脫服と称じ、福田衣と称ず。忍辱衣と称じ、無相衣と称ず。慈悲衣と称じ、如来衣と称じ、阿耨多羅三藐三菩提衣と称するなり。まさにかくごとく受持すべし。

（伝衣）

蓮華色比丘尼は遊女であった時、戯れに袈裟をつけて踊った因縁により、のちに出家得道し、阿羅漢となることが出来たという話も伝わっており、お袈裟を着けて修行にはげむことが解脫（さとり）に至る唯一の道であると説かれます。

またお袈裟は仏さまの衣であるから、衆生に福德を与える衣「福田衣」であり、世の常の相を超えた「無相」の衣であります。

このようにお袈裟を身につけるといふことは、仏の教えを身につけることであり、仏の「御いのち」を相続することであり、仏の御いのちを相続することは、広く一切衆生を救うことであるのです。

お袈裟を身につける以上はいつでもこのことを心に誓うべきであり、その誓いがこの「塔袈裟偈」となります。

善光寺では、留学僧育英会を通じ、韓国通度寺をはじめ各国へ袈裟の贈呈を行うなど仏教交流の輪を広げて参りました。お袈裟の功德で仏法が広がり、今も紛争の続く世界各国において仏教の思想が広く伝わりますようにと活動をして参りました。

これからも争いのない世の中に向けて微力ながら、一寺院として、仏教徒として務めて参りたいと存じます。



*The story of a walking  
9th Century*